

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スペースゆう		公表日		令和 7 年 3 月 1 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		基準の広さは満たしており、安全に配慮しながら活動内容を工夫している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		児童20名に対し指導員4名という国の人員配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	おもちゃは元画像が貼ってあり、収納トレーニングをしている。また情報過多になり過ぎないよう、必要最低限の掲示物にしている。	バリアフリーなし、今後必要になったときに必要なものを設置する予定。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		換気や消毒等を行い、清潔に保てるよう努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		子どもたちの特性や年次特徴を理解把握し、必要に応じて使用を認めている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎日ある午後イチ会議や、活動前後のミーティング、LINEグループにて全職員が参画している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		年1回の個人面談の他、毎週行う定例会議（アジェンダ）の際に確認している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	7		これから実施していく方向で検討している。第三者委員会の設置はないが、メンバーは選定している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		SSTを初めとする所外研修に積極的に参加し、法人内の合同研修や所内研修にて復命し、広く浸透させている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	6		支援プログラムに関しては、今年度が初めての公表となる（来春に公表予定）。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		原案を作成後にケース検討会議を開き、全職員の参加の下で児童発達支援管理責任者だけの偏向にならないよう配慮している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画書の作成参画だけでなく、モニタリングでの実際に出た内容等を児童情報として午後イチ会議で確認している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		今回の法改正で最も重要視している点であ。支援の方向性が散らばらないような「環」を心がけながら、将来の子どもの笑顔を思い描き作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		施設長やリーダーで叩き台を作り、全職員で意見を出し合いながら立案している。また、長期休み時は振り返りもしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		不変にすべき流れと可変できる部分を意識しながら、飽きが来ずに積み重ねて支援の厚みを持たせるプログラムにしている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			前もっての連絡を含め、当日の急を要する変更等もLINEグループにて時間差なく確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			送迎や清掃の終業時間に差があるので、上記のグループLINEにて気になる部分は確認している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			全員6か月に1度の見直しを行い、課題に対する検証も行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8				
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			公園活動や自由活動での遊び方、読み聞かせやおやつなどのお手伝い役割分担など、子どもが自分で考え選ぶ場を設けています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			基本的には児童発達支援管理責任者が参画し、場合によっては施設長やリーダーも同席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		医療や教育機関とは連携を取れているが、今後は縦軸の保育や就労と図っていく予定である。	これから実施していく方向で検討している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			送迎は必ずフェイス・トゥ・フェイスで先生方とコミュニケーションが図れるようお願いしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	7			これから進めていく予定である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8				相談員から求められて会議に参画していたが、今後は率先して連携を図っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1		園庭を有するので平日の交流活動は難しさがあるが、全日活動では児童館や公園等で子どもたちとの交流はある。	これからより実施していく方向で検討している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			隔月の児童発達支援管理責任者部会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			施設長が親の会に参加し、悩み相談や関わり方講座を行っている。	感染症流行のおそれから、あまり門戸を広げられないのが課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			契約時に重要事項説明書と利用契約書の中で丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			サービス記録や送迎時のコミュニケーションから実際に面談に流れを作り、家族支援や専門的支援に繋げている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	7	以前は「こんなときどうする」というテーマで実際に演じ、スタッフと保護者がみんなで考える会をやっていた。子ども役と保護者役に質問するコーナーが好評だった。	感染症流行により今はやっていないが、今後またやっていきたい。保護者からの再開の希望はたくさん届いているので、保護者間交流を含めてやっていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		できる限り迅速に状況の把握をした上で報告し、適切な対処を心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		HP上にある会員ブログを隔週でUPし、また文集を発行している。またLINEグループにて適宜担当から連絡している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		カギ付きの部屋、キャビネットに保管してできる限り事故の起こらないような配慮を心がけている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		桜の大樹があるので、花見イベントなどをこれから実施していく方向で検討している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルに関して、職員には周知徹底しており、保護者が閲覧できるように玄関口に掲示している。訓練は年2回実施中。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		災害用BCPの策定を周知徹底しながら、全職員で訓練実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		アセスメントの時点で服薬や既往症、アレルギーに関しては保護者に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		毎日おやつ成分表を出動職員全員で午後イチ会議の際に確認している。	過去チェックミスがあったことを猛省し、絶対に起こらないように分担して確認している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットは起こしてはいけない失敗でなく、ミスやエラー前の大事な気づきとして必要と認識し、記録している。	職員の自発的な記録に向けて研修中。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		受講職員による復命研修、外部講師を呼んでの法人内合同研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			現在対象児童は不在だが、身体拘束の必要性がある場合は、施設長の判断と保護者同意、計画に記載の下で実施する。	